



Flash News

三重大学

第76号

目次

- JAグループ三重と包括的連携協定締結
- 三重大学—三菱UFJリサーチ&コンサルティング(MURC)連携特別フォーラム
- 国際環境教育ワークショップで「アジア・太平洋大学環境コンソーシアム」構築
- 野村證券・百五銀行との連携事業一周年記念シンポジウム「三重地域圏が創造するアグリビジネス」

- 第6回日本難病医療ネットワーク研究会
- 三重大学レクチャーコンサート
- 第16回東海地区農学部附属演習林技術職員研修
- みえ産学官研究交流フォーラム2009
- 伊賀市長田小学校5、6年生来学
- 地域イノベーション学研究所「地域活性化講演会」
- 尾鷲市から三重大学に感謝状

お知らせ&ご報告

- ・生協から
- ・生命科学支援センターから

JAグループ三重と包括的連携協定締結



11月12日、三翠会館において、内田淳正学長、JAグループ三重のJA中央会田中利宣会長をはじめ関係者の出席のもと、標記協定を締結しました。この協定では、本学とJAグループ三重の相互の発展と社会貢献を促進するため、本学の教育・研究活動の支援と推進、地域活性化に資する活動の促進、地域貢献に関する活動の支援、人材の交流・育成に関する活動の推進などについて、本学とJAグループ三重が連携して取り組むことになっています。具体的な事業は、双方からの委員による連携協議会で決めることになっています。

(写真左から田中利宣会長、内田淳正学長)

三重大学—三菱UFJリサーチ&コンサルティング(MURC)連携特別フォーラム

10月29日、標記フォーラムを名古屋市内のホテルで開催し、船岡正光生物資源学研究所教授による森林資源の活用についての講演の後、鈴木宏治理事が大学の研究内容の紹介や企業との連携への期待などについて講演しました。また、リニア新幹線に関する分科会では、児玉克哉人文学部教授がコメンテーターを務めました。フォーラムおよびリニア分科会には、東海圏の企業や官公庁などから合計132名が参加し、「産学連携に興味を持った。」などの声が寄せられました。このフォーラムは、本学とMURCとの連携の第一歩であり、本学の広域的な活動基盤の充実につながる事が期待されます。

国際環境教育ワークショップで「アジア・太平洋大学環境コンソーシアム」構築

10月23日、総合研究棟Ⅱにおいて開催された国際環境ワークショップにおいて、平成20年度から文部科学省教育GPに採択された「三重大ブランドの環境人材養成プログラム」(事業推進責任者：朴 恵淑教授・人文学部)の飛躍的発展のため、韓国、タイ、モンゴル、中国、インドネシア、オーストラリア、日本のアジア・太平洋7か国、23大学の研究者による「アジア・太平洋大学環境コンソーシアム」が構築され、本学が事務局を担うこととなりました。各大学間における環境教育カリキュラムの相互交換、国際環境インターンシップの実施、テレビ会議システムを用いた授業および単位認定制度などの環境教育プログラムの開発を行うことや、来年10月に名古屋で行われる生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)のポストグローバルユース会議を本学で開催することを取り決めました。



野村證券・百五銀行との連携事業一周年記念シンポジウム「三重地域圏が創造するアグリビジネス」

10月20日、津センターパレスにおいて、これからの日本の農業と農業関連ビジネスのあり方をテーマとした標記シンポジウムを開催しました。これは、平成20年7月に開設した「野村證券・百五銀行・創業革新プロジェクト研究室」の一周年を記念して開催したものです。デリカフーズ(株)代表取締役の館本勲武氏による基調講演が行われ、パネルディスカッションでは、オリザ合同会社代表パートナーの浅井雄一郎氏、(株)イーラボ・エクスペリエンス代表取締役の島村博氏、うれし野ラボ(株)代表取締役の辻保彦氏、三重県農水商工部科学技術政策監の大泉賢吾氏をパネリストに、西村訓弘医学系研究科教授の司会で白熱した議論が行われました。会場には、県内外から約190名が参加し、活発な意見交換が行われました。

第6回日本難病医療ネットワーク研究会

10月9日、アスト津において標記研究会を開催しました。一般口演やポスター展示のほか、『在宅』からみたネットワーク各要素の確保と調整に関するランチョンセミナーやシンポジウム、イブニングセミナーを行い、難病医療の現況と問題点について検討しました。また、酪農学園大学の高橋一教授による「言葉による他者との意思疎通と自己の意思表示の技法」と題した特別講演が行われ、全国から難病医療専門員や医師（主に神経内科医）、看護師、保健師、行政職、医療ソーシャルワーカーなど幅広い専門職種から148名の参加があり、熱心に聴き入っていました。

三重大学レクチャーコンサート

10月18日、講堂（大ホール）において、新国立劇場オペラ研修所顧問の海老澤敏先生を講師に迎え、同研修所研修生6名による標記コンサート（主催：附属図書館）を開催しました。本コンサートは、モーツァルト生誕250周年を機に始められ、今年で4回目になります。若さ溢れる研修生がオペラ研修所のマルチェッラ・レアーレ特任講師の演出により、モーツァルトのドン・ジョバンニほか、愛をモチーフとしたオペラ7作品、計17曲を演じ、素晴らしい歌声が会場に響き渡りました。10代から80代までの幅広い年齢層から364名の参加があり、「とても良かった」という声や「質の高いとても良い企画」との評価をいただきました。



第16回東海地区農学部附属演習林技術職員研修

10月28日～30日、標記職員研修を実施し、附属演習林を有する国立大学法人から技術職員が12名参加しました。開会式では、平塚 伸フィールドサイエンスセンター長が「野猿（つるべ式索道）」について、林 拙郎附属演習林長が「伊勢神宮宮域林の造林木」について説明を行い、研修参加者は、研修会場で担当者から説明を受け、記録用写真を撮影したり活発に質問を行うなど有意義な研修となりました。

みえ産学官研究交流フォーラム2009

11月6日、7日、四日市ドームにおいて標記フォーラムが開催されました。今年も「リーディング産業展みえ」との同時開催で、県内企業と大学、高専、公設試験場、支援機関が一同に集まりました。今年は地域との連携に重点をおき、「中部電力との産学連携活動」ブースを出展し、企業相談コーナーも中小企業基盤整備機構と連携して行うなど、新しい試みを取り入れました。また、産学官民連携マガジン「Yui」を配布するなど、研究・教育活動の成果を来場者に広くアピールしました。2日間を通して多くの来場者があり、7日には、中川正春文部科学副大臣も来場されました。まさに、産・学・官・民が集うイベントとして盛り上がりました。

伊賀市長田小学校5、6年生来学

11月6日、伊賀市長田小学校5年生9名、6年生12名がキャリア教育の一環として本学に来学しました。本学到着後、生協第二食堂で大学生に混じり昼食をとった後、ベンチャービジネスラボラトリーで前田太佳夫工学研究科教授から風力発電についてのミニ授業を受けました。授業後は風洞での送風体験や屋外の風車を見学しました。子どもたちは「風車は1基建てるのにいくらかかりますか？」など活発に質問し、大学の雰囲気を楽しんだ様子でした。

地域イノベーション学研究科「地域活性化講演会」

11月7日、三重県経営品質協議会および三重県との共催で三重県庁講堂において標記講演会を開催しました。当日は、「いい会社を作りましょう」や「リストラなしの年輪経営」の著者である伊那食品工業（株）代表取締役会長の塚越寛氏を講師に迎え、「地域振興における中小企業の役割」と題した講演が行われました。会場には、企業関係者や一般の方々、本学関係者など約140名が来場し、熱心に聴講しました。

尾鷲市から三重大学に感謝状

11月11日、本学の研究者が行った尾鷲市での実地研究が市民生活の役に立つとして評価され、岩田昭人市長から内田淳正学長に感謝状が贈られました。前田広人生物資源学研究科教授による同市のダムの異臭問題解決や、朴恵淑人文学部教授による市内のレジ袋有料化でゴミ軽減に貢献したことが評価されました。岩田市長は「大学の地域貢献のモデルケースとして、今後も大学の支援を期待している」と述べられました。



お知らせ & ご報告

生協から

11月2日、附属農場で育てた「松阪牛」と「梅酒三重大学」の試食・試飲会がレストランパセオで開かれました。

生命科学支援センターから

11月13日、医学部構内で実験動物感謝式を挙行し、感謝の念と敬意を表しました。

投稿のお願い

各種事項（大学教育・研究、地域連携、国際交流、学内事業等）に関するフレッシュなニュース提供をお待ちしています。登 勉 (nobori@chin.medic.mie-u.ac.jp) または 井上真理子 (mariko-i@ab.mie-u.ac.jp) まで。場合によっては、取材に向きます。《フラッシュニュースのバックナンバーは、三重大学ホームページで (<http://www.mie-u.ac.jp>) ご覧いただけます。》編集責任者/理事・副学長 後藤正和

